

お金の知性を身に付けよう！ ～家計管理とNISA～



世の中の物価は上がる一方で収入はなかなか増えず、「この先、経済的に大丈夫なのか？」と不安を抱えている方も多いのではないのでしょうか。そんな中でも適切な節約方法や投資の基本を学ぶことで、お金を私たちの味方につけることが可能です。

経済的な不安を少しでも払拭するには、無理のない節約や賢いお金の使い方を実践しながら資産運用を取り入れることが大切です。

2024年から新しいNISAが始まり「貯蓄から投資へ」の流れが加速する中、資産運用を始める方が増えています。2024年9月時点で、NISA対象年齢（18歳以上）の4人に1人がNISA口座を保有しています。

また物価上昇が続く中、給与の伸びが追いつかない今、お金のスキルは不可欠です。「稼ぐ」「貯める」「使う」「増やす」「守る」など様々な力が求められますが、今回は特に「貯める（家計管理）」と「増やす（資産運用/NISA）」に焦点を当ててお伝えしましょう。

1 人生の3大資金とは？～老後にはいくら必要？～

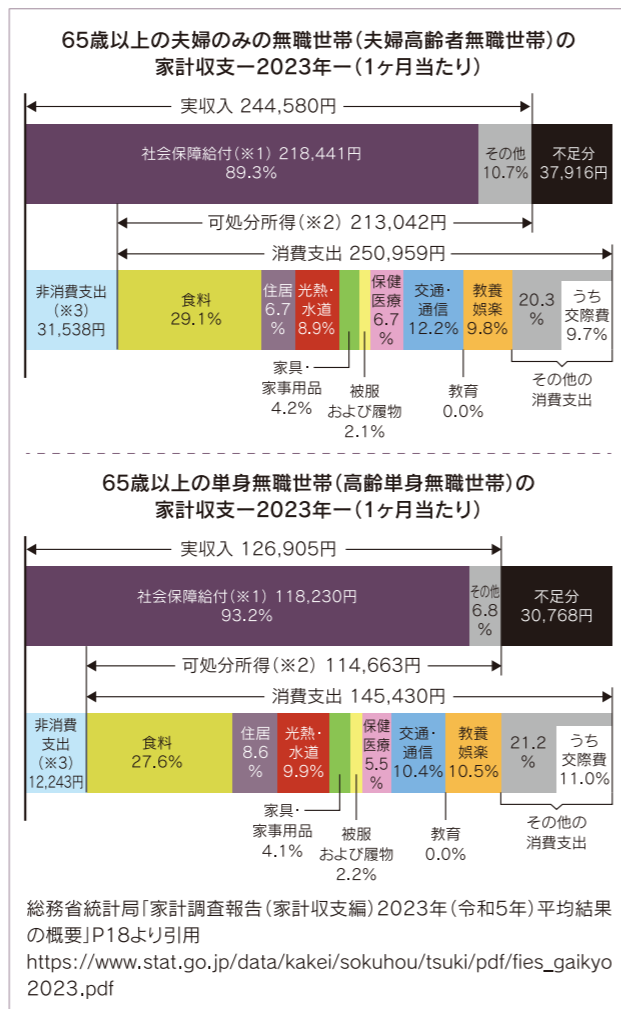
「人生100年時代」と言われる時代。そんな私たちの長い人生において「お金」は切っても切り離せない存在です。

一般的に人生の3大資金は「住居費・教育費・老後資金」とされていますが、特に老後資金への不安は大きく、総務省統計局の「家計調査報告（家計収支編）2023年（令和5年）平均結果の概要」によると、65歳以上の夫婦の家計収支は月額約3.8万円の不足、30年間（65～94歳）で約1,360万円の赤字となります。ここに2人分の予備費（医療費・介護費など）を含めると1,500万～2,000万円の準備が安心です。

さらにゆとりある老後を求めるなら毎月約37.9万円が必要とされ、30年間で約4,800万円の不足という調査結果も出ています（公益財団法人 生命保険文化センター「2022（令和4）年度 生活保障に関する調査」）。

また単身世帯では月額約3万円、30年間で約1,100万円不足するとされています。

各自が求める生活水準やライフスタイルなどによって必要な老後資金は異なります。ご自身がどんな老後を送りたいのかをイメージしてみましょう。



(※1) 社会保障給付：年金、医療、介護などにかかるお金のうち、自己負担分を除いた金額
(※2) 可処分所得：収入のうち、税金や社会保険料などを除いた所得
(※3) 非消費支出：税金や社会保険料など、消費を目的としない支出

2 節約は優先順位を付けましょう

効率的な節約で優先すべきは、固定費（＝毎月一定額支出する費用）です。例えば住居費、通信費、保険料、車関連費、サブスクなど、一度見直せば継続的な節約が可能です。

もちろん食費などの変動費の節約も重要ですが、まずは固定費を抑えることで自然に貯蓄が増え、日々の余裕も生まれます。不要な保険やサブスクがないか、まずは固定費をチェックしましょう。

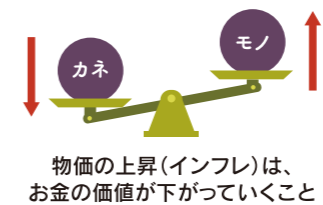
例えば、Aさん(30代・主婦)は、スマートフォンのプランを見直すことで月5,000円の削減に成功しました。この節約だけで、年間6万円、10年で60万円も浮く計算です。

3 貯蓄だけで大丈夫??インフレから資産を守る方法

某コンビニのコーヒー(Sサイズ)は、ここ数年で100円から120円へと20%値上がりしました。これはお金の価値が16%以上目減りしたことを意味します。実際に、ここ数年で食材・日用品・交通費など多くの価格が上昇し、消費者物価指数(CPI)の前年比上昇率は3年連続で2.0%以上となっています。

日銀のインフレ目標(2.0%)と同水準の物価上昇が続くと想定される一方、預金金利が物価上昇率を上回る可能性は低いでしょう。この状況では、単なる節約や貯蓄だけでは資産を守るのが難しく、お金の価値が目減りしてしまいます。

そこで重要なのが、「貯める」だけでなく「増やす(＝資産運用)」ことです。物価上昇に対応し、資産の価値を守り、さらに増やしていくためには、資産運用(投資)を考える必要があります。



4 NISAとはどんな制度?

NISA(少額投資非課税制度)とは、投資で得た利益(値上がり益・配当・分配金)に税金がかからない制度です。通常の口座では約20%の税金がかかりますが、NISA口座なら利益をそのまま受け取れます。

NISA	
成長投資枠	併用可 つみたて投資枠
対象年齢	18歳以上
投資対象	株式・投資信託など つみたて投資に適した一部の投資信託
年間投資枠	240万円 120万円
生涯総枠	1,800万円(うち成長投資枠は1,200万円まで) 再利用できる
制度の期限	期限なし
非課税期間	期限なし

現在のNISAは18歳以上が利用でき、「成長投資枠」と「つみたて投資枠」の2種類があります。成長投資枠では株式や投資信託など幅広い投資ができ、つみたて投資枠では金融庁の基準を満たした長期・積立・分散投資向けの投資信託が対象です。

年間の非課税投資枠は成長投資枠が240万円、つみたて投資枠が120万円で、併用すれば最大年間360万円まで投

資可能です。生涯の非課税枠は1,800万円(うち成長投資枠は1,200万円)までです。一部を売却すれば空いた枠でまた新たな投資(枠の再利用)ができます。

制度や非課税期間の期限はなく、長期的に活用できます。

5 投資の王道は「長期・積立・分散」～つみたて投資枠～

つみたて投資枠では、金融庁の厳しい基準(販売手数料ゼロ、信託報酬が一定水準以下など)をクリアした「長期・積立・分散」に適した投資信託が投資対象です。

長期的に、異なる資産へ分散しながらコツコツ積み立てていくことで、リスクを抑えながら大きな資産形成がめざせます。現時点でまとまった資金がない場合でも少額から始められるのもつみたて投資の魅力です。月々100円からつみたて投資できる証券会社もあります。まずは心理的にも経済的にも無理のない金額からスタートしてみたいかがでしょうか。

6 幅広く積極的に投資を楽しみたい～成長投資枠～

成長投資枠における投資対象も金融庁の基準を満たした金融商品になりますが、投資信託だけではなく個別株やETF(上場投資信託)、REIT(不動産投資信託)なども投資対象に加わり、幅広く投資ができます。高いリターンを狙って成長性の高い銘柄に投資するなど、自分の戦略に合わせた投資ができます。ただし、リタンの裏にはリスクもあります。いかにリスクを抑えて大きくリターンを狙っていくかは、やはりある程度の知識は必要です。

7 「知っているか」「実践しているか」が分かれ道

家計管理や資産運用の世界では、正しい知識があるかどうか、さらにその知識を活用して実践しているかどうかで結果が大きく異なります。

正しい知識を持ち一步を踏み出すことで、未来のお金の不安を減らすことができます。まずは小さな行動から始めてみましょう。例えば、家計簿をつける、NISAの仕組みを調べる、投資信託を少額から始めるなど、できることから一歩ずつ。お金の知性を身に付けて、充実した生活をめざしましょう!

PROFILE



ファイナンシャル・プランナー
肥後 知歩さん

主に家計管理や資産運用の講演を中心に活動中。現在は年間150回以上のセミナー講師やコラム執筆などを行う。元は自動車業界やホテル業界の会社員だったが、体調不良による失業を機に金融知識を学びファイナンシャル・プランナーに転身。わかりやすく実践しやすいマネー知識を伝えることを大切にしている。

6/28(土)に「らしの見直し講演会」を開催します!
詳細は#Ganbaranya6月号にて